

郷土博物館だより

令和7年度企画展「戸田と戦争(仮称)」

2025.8/2(土)~10/5(日)



軍服 (陸軍)

制服 (海軍予科練)

携行品

従軍記章

記念盃 (兵隊盃)

今年2025年(令和7)は、アジア・太平洋戦争が終結してから80年になります。日本は、明治時代から昭和時代にかけて中国、ロシア(旧ソビエト連邦)、アメリカ等を相手に戦争をしてきました。

特に1937年(昭和12)から1945年(昭和20)まで、日中戦争、アジア・太平洋戦争と続き、戦争末期には、働き盛りの男性だけでなく10代の少年までもが徴兵されました。当時農村地帯であった戸田でも、物資不足や、下戸田と美女木にあった高射砲陣地等を標的とした空襲に苦しめられました。しかし、戦後80年が経過しようという今、戦争体験者はますます少なくなってきています。日本が戦争をした事実や悲惨な体験は、教科書や終戦記念日等で見聞きする遠い過去の出来事になりつつあります。

こうした状況を踏まえ、本展では、郷土博物館で収蔵する戦争関係資料から、日本がどの戦争に関わっていたのか、徴兵された兵士や戸田の人々が戦時中どのような生活を送ったのか見ていきます。この機会に、戦争とはどのようなものなのかを考えてみませんか。

◆目次

令和6年度郷土博物館40周年記念祭レビュー …… 2-3	令和6年度かけはし高校アート展示レビュー、
令和6年度ロビー展レビュー …… 4	令和6年度昔のくらし展レビュー …… 7
令和6年度第30回企画展レビュー …… 5	令和6年度講座報告、収蔵庫情報46 …… 8
令和6年度第31回企画展レビュー …… 6	



令和6年度



郷土博物館40周年記念祭レビュー

郷土博物館は、昭和59年（1984）11月1日に開館した自然科学・人文科学の総合博物館です。この40年の間に来館者の数は延べ115万人を超えました。地域の皆様に愛されてきた郷土博物館の40周年を記念して、11月2日及び3日に記念祭を開催しました。博物館職員だけではなく、ボランティアの皆さんや手話通訳者の方など多くの方にご協力をいただきました。

郷土博物館開館40周年記念祭～みる！きく！あそぶ！～

11/ 2（土）

- ❖【オープニングセレモニー】市指定無形民俗文化財「おきなひばやし沖内囃子」公演
- ❖ 郷土博物館・図書館バックヤードツアー
- ❖ 企画展「新収蔵品展」展示解説
- ❖ 火おこし・黒曜石体験
- ❖ 郷土博物館で発掘体験！
- ❖ 軽食販売（どらやき、シフォンケーキ等）

郷土博物館で、展示解説をきいたり、体験であそんだり、色々なイベントがあったんだね！



11/ 3（日）

- ❖【オープニングセレモニー】新曽中学校吹奏楽部による40周年記念祭コンサート
- ❖ 40周年記念講座「郷土博物館と学校教育の連携の歩み」
- ❖ 古民家おはなし会
- ❖ 出張！みどりパルたんけん隊～まちの植物を探してみよう～
- ❖ センバコキ・縄ない・石臼・糸車体験

2日間共通イベント

- ❖ 大人も子ども楽しめるぬりえ体験
- ❖ 埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校による40周年記念展示
- ❖ 文字探しラリー
11月2日の文字は「たからもの」
11月3日の文字は「おめでとう」
- ❖ 懐かしの映写会（開館当時の映像資料）



40周年記念祭リーフレット

～40周年記念の記念品たち～

郷土博物館のマスコットキャラクターである「みみずく」を使った「クリアファイル」「ブックカバー」「メモ帳」「シール」を作成しました。



クリアファイル



ブックカバー



メモ帳



シール

ピックアップイベント「古民家おはなし会」

2024.11.3 (日)

図書館おはなしボランティアの皆さんのご協力のもと、郷土博物館常設展示室にある古民家を会場に「古民家おはなし会」を開催しました。この古民家は、江戸時代後期の民家をモデルに再現した、歴史を感じる造りになっています。午前は「大人向け」、午後は「子供向け」と題し、おはなしの内容も異なるよう工夫をしました。古民家内でのおはなし会は大変趣深く、感動した方や昔からのおはなしの伝承の大切さに気づいた方もいらっしゃいました。座っておはなしを聞くだけでなく、語り手と参加者が一緒に「なっこ（お手玉）遊び」を体験するなど、会場内が一体となって楽しんでいました。大変多くの参加者があり、古民家の外まで席が連なる様子はとても印象的で、大人も子供も大満足のおはなし会となりました。



古民家の外までお客さんがいっぱい



なっこ（お手玉）遊び

40周年記念祭当日の様子



市指定無形民俗文化財「沖内囃子」公演



バックヤードツアーで剥製を見学



マイギリ式で火おこしに挑戦

新曽中吹奏楽部による
40周年記念コンサート

郷土博物館で初めての発掘体験！



たくさんのわらを使って縄ないに挑戦

令和6年度

ロビー展レビュー

端午の節句

2024. 4.20(土)～5.5(日)

令和6年度のロビー展は2回行いました。1回目のロビー展は、5月5日の「端午の節句」に合わせて、郷土博物館で所蔵している五月人形や鎧飾りなどを展示しました。五月人形は、主に明治から昭和にかけてのもので、神武天皇（初代とされる天皇）など神話上の人物から、桃太郎や金太郎など昔話の主人公を象ったものまで多種多様です。昔の人が、わが子の成長をどれだけ切に願っていたかがうかがえます。

また、ロビー会場以外でも、2階と3階に鯉幟を飾りました。階段や柱に固定させる作業は大変でしたが、いざ完成すると、入口正面の階段とその奥に見える見事な鯉たちに圧倒されました。

16日間という短い会期でしたが、来館者からは、「本物のようすごい」「五月人形ははじめて見るものばかりで楽しかった」など好評でした。



五月人形



階段の巨大な鯉幟

戸田翔陽高校写真部×郷土博物館連携企画展 TODA PHOTO GALLERY 2024

2024. 7.10(水)～7.18(木)

2回目のロビー展は、埼玉県立戸田翔陽高等学校との連携展示を行いました。同校写真部は、全国高等学校写真選手権大会や、埼玉県内の高校を対象とした写真展で多くの実績を上げています。郷土博物館では、昨年度、同校写真部と初めての連携展示を開催し、好評を博しました。本年度も引き続き、来館者がアート作品に身近に触れられることを目的に、同校写真部の作品との連携による写真展を開催しました。今回は、昨年3月の校外作品展での作品を中心に新作も展示しました。コメントカードには、「どの写真も生き生きしている」「タイトルのセンスがいい」「かっこいい写真で感動した」など、作品や撮影者である写真部の皆さんに対して好意的なメッセージや感想が多く寄せられました。



展示会場

戸田の昔ばなし原画展 —池原昭治原画の世界—

2024. 8. 1 (木) ~ 9. 1 (日)

戸田の地域には、時代を超えて、人びとが長い間くらしの中で語り継いできた多くの昔話や伝説やわらべうたが残されています。「戸田の昔ばなし原画展」では、郷土戸田で語り継がれてきた昔話や伝説などに親しんでいただくとともに、その魅力を次世代の子供たちにも伝えるため、童絵作家の池原昭治氏が手がけた絵本『戸田のむかしばなし』の挿絵原画約50点を中心に展示を行いました。展示は、第1章：戸田の伝説（八まんさまの鐘、かっぱの金さん等）、第2章：戸田の昔ばなし（地藏堂と中山道の話、戸田の狐の話等）、第3章：戸田のわらべうた（船頭うた、なっこうた等）の3章構成としました。原画とあわせて、池原氏が原画を描いた際の思い出も紹介するとともに、おはなしのあらすじやわらべうたの内容の解説、おはなしの舞台となった場所の地図も添えて展示し、初めて戸田の昔ばなし等に触れる方にも分かりやすいよう工夫しました。展示の後半には、原画作者の池原氏の業績を紹介するコーナーも設け、ご本人から直接伺うことができた「童絵作家になったきっかけ」や「絵を描く中で大切にしていること」等についてパネルにまとめご紹介しました。特別展示室前ロビーには映像用モニターを設置し、池原氏の原画をもとに制作された「とだビデオライブラリー」3部作の映像を放映して、来館者に視聴していただきました。

また、展示関連事業として、「戸田の昔ばなしとわらべうたを楽しむ会」と「戸田の昔ばなしのぬりえであそぼう！」の2つの事業も開催しました。いずれも、大人から子供まで楽しめる内容で、多くの方にご参加いただきました。

普段の郷土博物館の展示ではなかなか見ることができない、色鮮やかでかわいらしい表現の原画作品の展示は多くの人の注目を集め、「荒川のかつての風景がすてきな絵と文章で知ることができた」、「戸田で生まれ育ったが地元の昔話は聞いたことがなかったためとても興味深かった」等、アンケートでは多数の好評の声をいただくことができました。



展示室の様子



『戸田のむかしばなし』等の刊行物



戸田の昔ばなしとわらべうたを楽しむ会



戸田の昔ばなしのぬりえであそぼう！

新収蔵品展～ようこそ戸田の宝物たち～

2024.10.5(土)～11.17(日)

2024年(令和6)11月1日に郷土博物館が開館40周年を迎えるのに合わせて行われた第31回企画展「新収蔵品展」では、2021年から2023年に寄贈された資料の一部をまとめて紹介しました。展示室前のロビーでは埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校1年生による色鮮やかな石膏製のりんごが来館者を出迎え、展示室内では140点の資料がお目見えしました。資料の年代は江戸時代後期から現代まで幅広く、それらを第1章「戸田の人々の暮らし」、第2章「戸田の信仰と美術品」、第3章「戸田とスポーツ」に分けました。

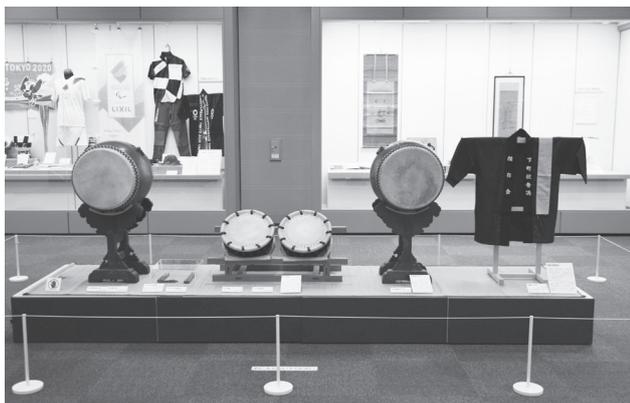
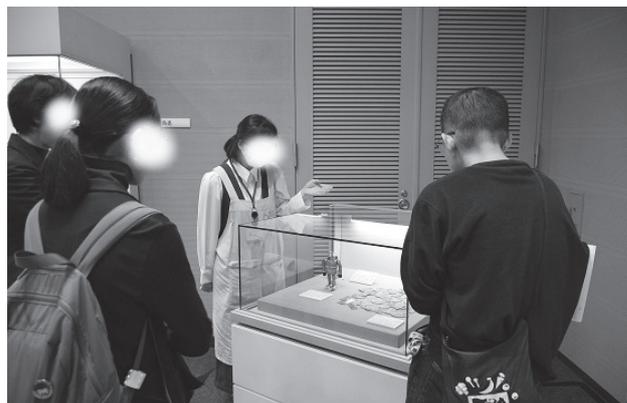
展示では、戸田に残された美術品や日用品以外にも、1962年から2021年まで約59年間にわたって戸田で営業していた丸正洋品店、近年解散した新曾下町観音経と上前庚申講、戸田市保養所の白田の湯、戸田市役所の定礎板、新型コロナウイルス感染症の流行により1年延期された東京2020オリンピックなど、現在では途絶えてしまった商売や芸能、信仰、印象的なできごとなども紹介することができました。

アンケートでは、資料に関する追加情報や、「なつかしい」「戸田の暮らしや文化を知る機会となった」「お店を利用していた」「展示が見やすかった」などのご意見をいただきました。

郷土博物館に寄贈されるどの資料も、寄贈者が実際に使ったものやご家族との思い出の品です。今回の展示を通して、本からは知ることができない「寄贈者の思いの一端」に触れ、戸田の暮らしや歴史に興味を持つ機会となったなら幸いです。



1階ロビー導入展示

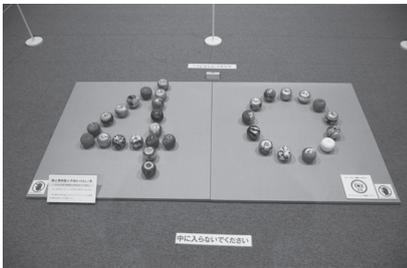
まるしょう
丸正洋品店にいぞしもちょうかんのんぎょう
新曾下町観音経

展示解説・遊び道具

令和6年度かけはし高校アート展示レビュー

2024.10.17(木)～11.17(日)、12.12(木)～12.22(日)

埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校との連携によるアート展示も3年目を迎えました。今回は1年生生徒の皆さんにご協力いただき、高1美術で「ニュートンのりんご」をテーマに制作した石膏製のりんごのオブジェによるコラボ展示を開催しました。2024年、郷土博物館は開館40周年の節目を迎えました。そこで、アート展示第一弾では40周年にちなんでりんごのオブジェを「40」の形に並べ、40周年記念にふさわしいアート空間を創り出しました。第二弾では「ニュートンのこしかけ」と題して、鮮やかに彩色された大きな切り株やたくさんの葉っぱが散りばめられた中にりんごのオブジェを飾り付け、第一弾とはまた異なる雰囲気でもカラフルなアート空間を創り出していました。生徒さん一人ひとりが1個ずつ制作したオリジナルのりんごオブジェによる展示は、それぞれのセンスや個性が感じられるとともに、作品に込めた思いも伝わってくるようでとても印象的でした。第一弾、第二弾とも、戸田かけはし高等特別支援学校生徒の皆さんは郷土博物館に来館して展示作業まで担当しており、生徒の皆さんの思いが伝わってくる、温かみのあるアート展示となりました。



第一弾 40周年記念



第二弾 ニュートンのこしかけ



令和6年度昔のくらし展レビュー

2025.1.18(土)～3.9(日)

昔のくらし展では、展示室内は昭和初期から後半まで使用されていた道具や当時の写真パネルを中心に毎年展示を行っています。展示室前のロビーは毎年展示内容が異なりますが、今回は「子供も大人も楽しめる」体験を目的とし、その内容として①昔のお正月あそび、②昔の教科書をみてみよう、③一升瓶で精米体験、④ダイヤル式電話での通話体験、⑤ねんねこぼんてんを羽織る体験のコーナーを設置しました。ダイヤル式電話は教科書などで見たことはあっても、スマートフォン等が普及した現在では、なかなか操作する機会も無いのではないのでしょうか。

「教科書で見たことがある道具はこうやって使うのだな」「昔の人はこうやって子供を背負っていたのだな」「お正月はこのようなあそびをしていたのだな」など、それぞれの人が異なる感想を心に留めていたかと思います。

《展示室内の様子》



土間の再現



部屋の再現

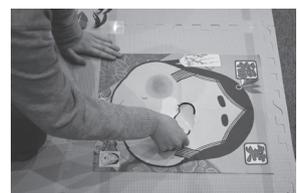


居間の再現

《ロビー体験の様子》



一升瓶で精米体験



福笑い



ダイヤル式電話での通話体験

令和6年度講座報告

2024年に開館40周年を迎えた郷土博物館では、40周年記念イベント関連講座を開催しました。まず8月には、ベーゴマやフラフープ、お手玉やおりがみなど、昭和時代の遊びを中心とした内容の講座を、参加者に自由に体験してもらう形式で開催しました。11月2日・3日開催の40周年記念祭の中で実施した講座では、初日に火おこしと黒曜石で紙を切る体験を、二日目に昔の農家で使われていた様々な道具の体験を行いました。通常の子ども体験ひろばとは異なり、対象年齢を設けないことで、非常に多くの小さなお子さんや家族連れの方の参加がありましたが、博物館ボランティアさんのご協力もあって、事故やケガもなく無事に終わることができました。郷土博物館では、このほかに通常の「子ども体験ひろば」の講座として、10月の「ヤゲンでものをすりつぶそう」や2月・3月の「昔の道具を使ってみよう」等、さまざまな講座を開催しました。



ボランティアさんといっしょに、おりがみ体験

収蔵庫情報.....〈46〉

給食用食器

1957年(昭和32)以降、戸田市内の小学校や中学校の学校給食で使われた食器です。郷土博物館では、小学校や学校給食センターから寄贈されたものを、学校生活の様子を後世に伝える資料として所蔵しています。

給食用食器と一口に言っても材質や形も様々です。使っていた年代などによって色々と違っていたり、逆に全く違う年代のものなのに似ている部分があったりします。例えば食器の材質は、1970年(昭和45)頃を境にアルマイト製からポリプロピレン製へと変わりますが、どの年代でも似た形のボウル形の食器が使われています。また、年代が新しくなると、ワンプレートのお皿など新しい種類の食器が登場します。

郷土博物館の常設展示で給食用食器は展示していませんが、毎年行っている「昔のくらし展」では、「昭和30年代の給食」、「昭和60年代の給食」として当時の給食を再現した状態で展示しています。普段あまり意識することのない食器ですが、自分が給食で使っていたものを思い出しながら、展示されているものとどこが違っているのか、どこが似ているのかという点に注目してみると面白いかもしれません。



給食用食器

(左：アルマイト製 / 右：ポリプロピレン製 / 中央：ワンプレート皿)



郷土博物館だより 第51号

■発行：令和7年3月26日 ■編集・発行：戸田市立郷土博物館

〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曽1707番地 TEL 048-443-5600 FAX 048-442-8988

URL <https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/377/> E-mail hakubutu@city.toda.saitama.jp

■印刷／有限会社宮園印刷